

第2回選定委員会議事録

令和6年7月10日（水）

【開会】

- ◇事務局 遅刻者報告
- ◇会長 議事確認
- ◇事務局 日程についての説明

【保健体育】

- ◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1と第2及び第3の観点。

大日本図書の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点②、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、なし。

大修館書店の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第2と第3の観点。

学研の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点②、第2の観点③、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑨

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1と第5の観点。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる特徴のある三社、「東京書籍」「大修館書店」「学研」の教科書について、観点ごとに説明する。

東京書籍の教科書について説明する。この教科書では、特に第1の観点と第2の観

点、及び第3の観点を取り上げる。

第1の観点、「知識及び技能の習得」。教科書67ページ「保健編3章」「傷害の防止」。章扉では、小学校保健や高等学校保健体育の学習内容も参考にして、章の学習の概要をつかむことができるよう工夫されている。また、章の学習内容に関連した「保健体育の職業」を紹介している。さらに、デジタルコンテンツ（動画）では、詳しい内容を視聴することができるよう工夫されている。このような単元のねらいの具体性や分かりやすさ、その示し方の工夫により「知識及び技能の習得」が期待できると考えられる。

第2の観点、「思考力、判断力、表現力等の育成」。教科書71ページ「活用する」。「活用する」では、習得した知識・技能を活用してより深く考える活動が設定されている。また、思考ツールをはじめ、生徒の思考、判断、表現を支援するデジタルコンテンツが用意されている。ここでは、習得した知識をもとに、交通事故の発生要因を考える内容であるが、デジタルコンテンツには、衝突事故を教科書の図のように「上空からの視点」の動画に加えて、「自転車からの視点」「自動車からの視点」の双方の動画コンテンツにより思考、判断を支援するコンテンツが充実している。

第3の観点、「主体的に学習に取り組む工夫」。教科書の122ページ、保健編5章「健康と環境」「1 環境への適応能力」のページ。見開き2ページを1時間の授業構成とし、ページのはじめに日常経験や資料、小学校で学習したことをもとに、学習課題にせまる「見つける」が設定されている。この「見つける」をもとに「学習課題」が示され、課題の解決に向けて授業が展開されるよう工夫されている。さらに、123ページ。習得した知識・技能を活用して、より深く考える「活用する」や、学習したことを自分ごと化できるよう「広げる」が示されている。このように、主体的に課題を発見し解決する学習活動を実現するための学習の進め方や、課題解決の過程の工夫がなされており、「主体的に学習に取り組む」ことが期待できると考えられる。

東京書籍の教科書は、「知識及び技能の習得」と「思考力、判断力、表現力等の育成」と「主体的に学習に取り組む工夫」が、他の教科書と比較して特徴である。

大修館書店の教科書について説明する。この教科書では、特に第2の観点と第3の観点を取り上げる。

第2の観点、「思考力、判断力、表現力等の育成」。教科書93ページ、右下「学習のまとめ」。各学習時間の最後には「学習のまとめ」が設定されており、多様な表現活動が提示され、学習課題につながる気付きや思考を促すことができるよう工夫されている。このように、学んだ知識や経験に照らして自分の考えをまとめて表

したり、理由を添えて伝えたりする工夫がなされており、「思考力、判断力、表現力等の育成」に期待できると考えられる。

次に、「主体的に学習に取り組む工夫」。教科書 24 ページ、25 ページ。24 ページ左側のように、各学習項目に関連した「コラム」や、25 ページ右下、「ほり下げる」が毎時間取り上げられている。また、教科書 29 ページ。「章のまとめ」では、「主体的に取り組む態度」により、学習したことをもとにして、自分の課題を見つけ、さらなる学びへの意欲を喚起する工夫がなされており、「主体的に学習に取り組む」ことが期待できると考えられる。

大修館書店の教科書は、「思考力、判断力、表現力の育成」と「主体的に学習に取り組む工夫」が、他の教科書と比較して特徴である。

学研の教科書について。この教科書では、特に第 1 の観点と第 5 の観点をとり上げる。

第 1 の観点、「知識及び技能の習得」。教科書 74 ページ。「学習課題」の下に、「キーワード」として学習項目の基本用語を明確に示してある。また、83 ページ。各学習項目を学んだ後の「章のまとめ」では、「この章で学んだキーワード」が、学習したページとともに示されている。十分な理解ができていない場合は、該当ページにもどるなど、自己調整を図りながら学び直すことができるよう、「知識及び技能の習得を図る工夫」がなされていると考えられる。

第 5 の観点、「内容の表現・表記」。教科書 170 ページ、171 ページ。どの学習項目も、見開き 2 ページの流れが、課題発見の「ウォームアップ」、課題解決のための「エクササイズ」、学んだことを基にして実践的な課題に取り組む「学びを活かす」の基本構成となっており、マークの色を統一し、発問であることを認識しやすくするなど、「内容の表現・表記」に工夫がなされている。

学研の教科書は、「知識及び技能の習得」と「内容の表現・表記」が、他の教科書と比較して特徴である。

◇委員長 東京書籍第 2 の観点 71 ページ「活用する」のところ、思考ツールはどんなものか、具体的に教えて欲しい。

◇調査員 ワークシートがある。

◇委員長 具体的な例で説明をお願いしたい。

◇調査員 61 ページ目である。プリントアウトして使える。69 ページの例のような場面で考えることができる。

◇委員長 大修館について「主体的な態度～」と評価した意図は。

◇調査員 評価の観点の 3 つの柱について、単元ごとに自己評価活動を行える点を評価した。

◇委員長 「学びに向かう力」は、生徒の行動の様子を見て判断するもので、的確に把握する

ことが難しい面がある。29ページの場合、意欲・積極性・手応えを生徒に自己評価させて可視化することができる。②「もっと考えたい」にチェックを入れて、記述できる。生徒のメタ認知力を育てることができる。興味・関心について記録できるという特徴がある。

学研について、「自己調整を図る」とした意味を詳しく教えて欲しい。

◇調査員 生徒の理解度は様々である。ページ数があれば、自ら振り返りながら、調整できる。

◇委員長 個々の生徒の学びの深さに応じて、学び直すことができるという捉えでいいか。

◇調査員 良い。

◇委員長 東京書籍について、報告書は「広げる」を取り上げているが、どうか。

◇調査員 今日の説明の方がより特徴的であるという捉えでよい。

◇委員長 みなさん、いかがか。

◇委員 東京書籍、日常生活との関連、第3観点の6など、生活習慣病など、各社の特徴があれば教えて欲しい。

◇調査員 東京書籍、123ページ、熱中症について、資料3熱中症警戒アラートが取り上げられている。その点が工夫である。また、142ページ、感染症の広がり方（新型コロナウイルス）。巻末のスキル19、手洗いの仕方。スキル20、マスクの仕方。こういったものが生活と密着している。

◇委員 3社の中で、東京書籍であれば、1ページの構成・流れについて、尾道の子にとって、思考力を育てるために、どこが良いか。

◇調査員 74・75ページ。課題発見し、解決し、振り返る。そこから活用するという点が、東京書籍に特徴がある。該当するデジタルコンテンツもついている。この部分が前回よりも良くなっている。

◇委員 動画を扱うことがどれくらい増えたか。

◇調査員 多様な学び方の1つとして、有効である。

◇委員 では、使われているという解釈でいいか。

◇調査員 良い。

◇委員 見えやすさ、読みやすさは話題になったか。

◇調査員 東京書籍が、見開きで1時間となっている。3社とも、色等の見やすさがある。

◇委員 イラストと文字の関連について見やすさはどうか。

◇調査員 どう扱うかは指導者が生徒の実態に応じて、調整しながら進めていく。

◇委員長 学習のつかみは、直感的になされるもの。それを文章等で概念化していくつくり教科書になっているかを見ていけば良い。そのつくりがおかしいものがあれば教えて欲しい。

◇調査員 それはない。

◇委員長 以上で終わる。

(東京書籍)

「広げる」のところ、「『活用する』では」とする。第3の観点は、問題を発見させて、それを解決できるようにする部分を取り上げた方が、良い。

⑥ではなく、⑤に特徴があると捉えるべきであるが、いかがか。

◇委員 東京書籍は、第3の観点⑤、課題は学習課題なのか、自己の課題なのかが分かるようにした方が良いのでは。

◇委員長 教科書のつくりとしては、学習課題になるであろう。

◇委員 「活用する」の方は、自己の課題となるのでは。

◇委員長 スキルブックについて、これこそ、日常生活に活用していくもので、価値があるものと考えられる。第1の観点について、①ではなく、②を○にするのが良い。巻末のスキルブックが、自己の課題として捉えることができるようになるため。身の回りに起こる健康や安全に関する課題でスキルブックの内容が活用できる。

(大日本)

特になし。

(大修館)

第2の観点の④、「学習課題につながる課題や気づきを促し」とする。

第3の観点の⑥、「章のまとめでは、」「主体的に学習に取り組む態度」にかえる。「学習活動を振り返って自己評価し、そこで喚起された興味や関心を意識させ、自分の課題を見つけ、さらなる学びの意欲を促す工夫がされている」とする。

(学研)

第1の観点、「『キーワード』として学習項目の基本用語を明示し、」とする。

「十分な理解ができていない場合は該当ページに戻るなど、学び直しができる」とする。第2の観点、「個人生活における健康安全について、自分の考えを言葉や文章及び動作で表したり、理由を添えて伝えたりする活動の工夫」とする。「『学びを活かす』として習得した知識を活用し、グループでの協働活動をもつことで、思考を深める場面を設定している。また、章末に設定した研究課題―『探究しようよ!』―で、課題の例や学習の仕方を示すことによって、課題解決的な学習が展開されるように設定されている。」とする。

第5の観点、「どの学習項目も、見開き2ページの流れが、課題発見の『ウォームアップ』、課題解決のための『エクササイズ』、学んだことを基にして実践的な課題に取り組む『学びを活かす』の基本構成となっており、マークの色を統一し、発問を明示するなど、学習活動に継続して参加させる工夫をしている。」とする。生

徒が今、何を考えれば良いかを分かりやすくし、生徒たちが学習活動に集中力を切らさずに参加するための工夫として評価する。

◇委員 ④の方が、特徴が出ているのではないか。

◇委員長 学研の特徴として、考えるのであれば、④を特徴としてあげる方が良いであろう。

◇委員 ④の方が特徴として、良いと思う。

◇委員長 では、④とする。以上で保健体育の審議を終わる。

【数学】

◇委員長 数学の調査研究報告をお願いします。

◇調査員 総合的な所見について、教科書ごとに説明する。

調査報告書の1ページ。東京書籍の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点①、第2の観点は視点③、第3の観点は視点⑥

第4の観点は視点⑧、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第2の観点、第3の観点、第5の観点である。

調査報告書の2ページ。大日本図書の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点②、第2の観点は視点④、第3の観点は視点⑤

第4の観点は視点⑨、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、なし。

調査報告書の3ページ。学校図書の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点①、第2の観点は視点④、第3の観点は視点⑥

第4の観点は視点⑨、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第3の観点、第5の観点である。

調査報告書の4ページ。教育出版の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点①、第2の観点は視点④、第3の観点は視点⑤

第4の観点は視点⑨、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、なし。

調査報告書の5ページ。啓林館の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点

を伝える。

第1の観点は視点②、第2の観点は視点③、第3の観点は視点⑤

第4の観点は視点⑧、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第5の観点である。

調査報告書の6ページ。数研出版の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点②、第2の観点は視点③、第3の観点は視点⑥

第4の観点は視点⑨、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、なし。

調査報告書の7ページ。日本文教出版の総合的な所見のなかで、観点ごとに特徴的な視点を伝える。

第1の観点は視点②、第2の観点は視点④、第3の観点は視点⑥

第4の観点は視点⑨、第5の観点は視点⑩

他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、なし。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる特徴を持つ3社「東京書籍」、「学校図書」、「啓林館」の教科書について説明する。

はじめに東京書籍の教科書について説明する。この教科書では、第1の観点と、第2の観点と、第3の観点と、第5の観点を取り上げる。

東京書籍の第1の観点、知識及び技能の習得。

2年生11ページ。章のタイトルを多くの教科書が「式の計算」としているところを「文字式を使って説明しよう」と具体的に示したり、12ページでは、生徒が任意の数字2つを選び、決められたルールに沿って計算すると必ず結果が28になるというマジックシートを取り上げ、章の学習内容につながる問いかけとともに、章を通して身に付けさせたい「資質・能力」を伝えたりすることで、目標をしっかりとらせ、学習内容の定着を図る工夫をしている。

16ページの下のように、学習のまとめりに「クイックチェック」を設定し、必ず身に付けたい問題を取り扱い、22ページのように節末に、本節で学習した内容のページを示し、振り返ることで学び直しができるようにも工夫されている。

デジタルコンテンツは、そのページの内容に関する計算領域の練習問題だけでなく、132ページのように、コンテンツ内で証明の学習を助ける証明メーカーなど、証明が苦手な生徒も性質を考えながら証明を進めることができるなど、知識及び技能の習得が進むよう工夫されている。

第2の観点、思考力、判断力、表現力の育成。

2年生179ページ。ここでは、スーパーマーケットのデータ活用を取り上げ、実社会と結び付いた内容で、数学の学習が将来につながることを実感させながら、生徒が主体的に学んだことを用いて説明したり話し合ったりできる課題になっている。

185ページのように複数のデータの分布を比較するときに、箱ひげ図とヒストグラムなど異なる図で表し、その特徴を比較することで傾向を調べ説明したり、187ページのように、箱ひげ図の誤った読み取り方について批判的に考察して説明したりすることができるよう工夫されている。

第3の観点、主体的に学習に取り組む工夫。

2年生83ページ。多くの教科書が各節の導入問題にページをほとんど割かないところを、「深い学び」として、習得した知識・技能を活用して、問題解決するページを設定し、生徒が解決したくなる身のまわりの問題場面として、保冷パックに入れた飲み物がどれくらいの間、冷たく保てるかを考える問題を用意し、主体的に学習に取り組む工夫がなされている。

83から84ページの教科書右端たてに「問題をつかむ→見通しをたてる（自分で考えてみよう・友だちの考えを知ろう）→問題を解決する（話し合ってみよう）→ふり返る→深める」と問題解決の過程を示してあり、これに沿って生徒自らが考え、対話を通して考えを深める授業を促し、問題解決的な学習を実施するための工夫がなされている。

最後に第5の観点、内容の表現・表記。

イラストや写真の数は他の教科書と同等ながら、デジタルコンテンツの数が突出して充実している。おおよそ2ページに1度以上の頻度で現れる二次元コードを端末から読み取ると、教科書のページの内容に沿ったデジタルコンテンツを活用することができる。基礎・基本の定着に役立つ動画シミュレーションやフラッシュカードなどを使って反復演習を行える環境が整っている。その他の実験動画や解説動画なども充実しており、視覚的に内容を理解しやすくする工夫や数学的思考を行いやすくする工夫がなされている。

第4の観点については、A3の一覧に示している通りである。

学校図書の教科書について説明する。この教科書では、第1の観点と、第3の観点と、第5の観点を取り上げる。

学校図書の第1の観点、知識及び技能の習得。

2年生8ページ。「ふりかえり」は各領域に入る前に、小学校や前学年までの学習をふりかえり、つながりを意識させることで次の学習に向かう力となり、学び直しや既習事項の確認及び振り返りに関する扱いの工夫がなされている。

12 ページのように、各学習のはじめに「Question」を設定して学習のきっかけとし、キャラクター同士の会話により問題解決の見通しを持たせている。

続いて、第3の観点、主体的に学習に取り組む工夫。

2年生95 ページ。おいしいお茶の入れ方を調べる題材をきっかけに、水を熱する実験において、沸騰するのは何分後になるか予測する問題。96・97 ページの右端に「問題を見つけよう→実験して考えよう→グラフに表してみよう→説明してみよう→式に表して考えてみよう→新たな問題を考えよう」と学習過程が示され、答えを導く過程を説明することが苦手な生徒も論理的に筋道立てて説明しやすくする工夫と説明する場面を設定し、問題解決的な学習を実施するための工夫がなされている。

第5の観点、内容の表現・表記。

具体的には、二次元コードを読み込むことで、デジタルコンテンツを利用できますが、「マスマス」というAIチャットを使って、知りたいことが教科書のどのページに書かれているか、質問を行うことができるようになっている。またチャットに間違った計算式や知りたいことを手書き入力することで数式が認識され、解き方や説明の回答が返ってくるようになっている。生徒の個別のつまずきに対応した内容となっている。

第2、第4の観点については、A3の一覧に示している通りである。

啓林館の教科書について説明する。この教科書では、第1の観点と、第5の観点を取り上げる。

啓林館の第1の観点、知識及び技能の定着を図るための工夫。

1年生の116 ページ。日常生活と関わる課題、身近な課題を扱い、箱をつくるとき、切り取る正方形の1辺の長さが変わることとともなって、箱の底面の1辺の長さが変わることなどについて考えることを通して、ともなって変わるという関数の概念について理解できるようにしている。

117 ページに、切り取る正方形の1辺の長さを変えた3種の図を示し、ともなってどんな数量が変わるのか話し合う場を設定し、他者の考えを尊重しながら自分の考えとの違いを理解し、どれが正しい考えなのかを判断する力や、自分の考えが正しいと考える根拠を他者に理解してもらう表現力を鍛えながら、数学の概念を身に付けていく工夫がなされている。

第5の観点、内容の表現・表記。

具体的には、他と同じく二次元コードを読み込むことで、デジタルコンテンツを利用することができるが、他の教科書との大きな違いは、例題の動画解説が充実しており、つまずきやすい計算や解き方を動画で確認することができるようになっている。

る。また、教科書の問題数は他の教科書と比べて少ないが、デジタルコンテンツ内に教科書に掲載されていない補充問題や発展問題が非常に多く収録されており、個人的な理解度や進度の差に対応できる工夫となっている。

第2、第3、第4の観点については、A3の一覧に示している通りである。

以上で説明を終わる。

◇委員長 質問はあるか。

◇委員 学図について、AIチャットを実際に使用したか。

◇調査員 使った。

◇委員 生徒にとって、有効であったか。

◇調査員 家庭学習の際に調べるのには有効である。

◇委員 どんな生徒を想定して有効性を判断したか。

◇調査員 学習内容の理解に困難を感じている生徒を想定している。

◇委員長 AIの回答で聞きたいことが返って来ないこともある。つまりきそうなことを入力して試したか。先の委員の質問は、そういう意図の質問である。

◇委員 そういった意味では、十分対応できていない。十分試せていない。

◇委員長 チャット形式というのは、目のつけどころは良いが、本当に必要な生徒に対応できるものかが肝要である。

◇委員 デジタルコンテンツの補充問題を生徒はどうやって取り組むのか。

◇調査員 ノートに解くようになる。

◇委員 教科書に問題が載っていれば、その点は網羅できるのでは。

◇調査員 動画で解き方を示してくれる部分は、効果的である。

◇委員長 ICT活用が数学において有効な場面は何か。

◇調査員 図形、グラフの点が動くなどは、有効である。

◇委員長 図形の学習で有効なのは想像しやすい。生徒が自分で動かせるコンテンツはどこの社が特徴があったか。

◇調査員 東京書籍である。

◇委員 教科書の場面の設定に、中学生は興味をもてるのか。

◇委員 これまでは、教科書と日常生活がつながっていなかったが、数学が日常のどんなところに使われているかという視点も大切にされている。

◇委員長 発達段階的には抽象思考がより高度にできるようになる時期。抽象的な理解を行った上で、学習指導要領では、数学で学んだことを、日常に生かしていくという視点が重視されている。

◇委員 そういう視点でみれば、各社で特徴が出てくる。

◇委員長 学んだことをどう日常に活用していくかを見ていくと各社の特長が良く表れている

のではないか。

◇調査員 そういう意味では、巻末で扱う問題はふさわしい教科書もある。

◇委員 知識・技能に関して、振り返り・学び直しという観点で学図は有効か。

◇調査員 全ての単元にあるものではないが、生徒の自信につながるものもある。

◇委員長 尾道市の生徒の学力調査等における課題を解決するために有効な会社はあるか。

◇委員 学力調査については、結果を見ているが、現状として、秀でているところはない。特に悪いところもない。満遍なく学べる教科書が相応しいと思う。また、一人一台端末も有効活用できる教科書が相応しい。

◇委員 コロナ禍の学習内容が抜けていないか。そういった部分を補えるような教科書はあるか。

◇調査員 各社、学び直ししながら補っているくように作られている。

◇委員 特に理解が不十分だったところを補えるような配慮がある教科書はどこか。

◇調査員 それは学図である。具体例でいうと、1年生の教科書の8ページである。東京書籍の19ページにもある。（負の数の学習）

◇委員長 以上で数学の調査研究報告を終わる。

（東京書籍）

第1の観点、「章の学習につながる問いかけと共に、各章のまとめりに『クイックチェック』を設定し、必ず身に付けたい問題を取り扱い、学び直しができるよう工夫されている。」「コンテンツ内で証明の学習を助ける証明メーカーなど、証明が苦手な生徒も性質を考えながら証明を進めることができる。」とする。

第2の観点、「実生活と結び付けて活用し、」、「箱ひげ図とヒストグラムなど異なる図を比較して、その特徴を比較したり、箱ひげ図の誤った読み取り方について批判的に考察して説明したりするなどして、思考力・判断力・表現力等を育成することができる。」とする。

第3の観点、「『深い学び』として、習得した知識・技能を活用して、問題解決するページを設定し、生徒が解決したくなるような身のまわりの問題場面を用意し、」とする。

（学図）

第3の観点、「日常生活に関連した題材を取り上げ、」とする。

（啓林館）

第1の観点、「分かりやすく理解する工夫がある。」とする。また、補充問題が豊富であること自体を評価しも良い。

◇委員 評価して良い。

◇委員長 では、そのように表現する。

第3の観点、「話し合いの場面を設定し、他者の考えを尊重しながら自分の考えとの違いを明らかにし、どれが正しい考えなのかを判断する力や、自分の考えが正しいと考える根拠を説明する表現を鍛えながら、数学の概念の理解を深めていく工夫がなされている。」とする。高く評価するにふさわしい特長であるので、○をつける。

基礎・基本の定着に力を入れているという視点では、東書、学図、啓林。

◇委員 東書は4つであった。

◇委員長 ○が3つ付いていれば、教科書として選ばれても問題ないという捉えでよい。
以上で数学の審議を終わる。

【音楽（一般）（器楽）】

◇委員長 音楽（一般）（器楽）の調査研究報告をお願いします。

◇調査員 総合的な所見について教科書ごとに説明する。

教育出版社の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに特に特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点①番、第2の観点③番、第3の観点⑥番、
第4の観点⑧番、第5の観点⑨番

この教科書では特に、第1の観点と第2の観点を取り上げる。

第1の観点、①表現、鑑賞領域の知識及び技能の習得を図るための工夫について。
ここでは表現領域の中の歌唱を取り上げて、説明する。

第1学年教科書の12・13ページ。歌唱の姿勢や母音の発音についてイラストを使用して示している。母音の発音については、口の開け方を五つの母音ごとに示している。また歌唱をする際、息をコントロールする必要があるが、おなかの筋肉を確かめるための手立てがイラストで示されている。脇腹に手を添えて筋肉の動きを確かめて、実際にやってみることを促している。その際、13ページの下にあるように息の当て方を試したうえで、4小節の短いフレーズを使って、実際の発声につなげるよう意図されている。

24ページには日本語の言葉の発音（鼻濁音）についてふれられている他、2、3年の上巻15ページには良い声を出すためのストレッチ方法などがイラストにより示され、順を追って取り組めるようになっている。以上のことから言葉を大切にした歌声につなげる基礎的な技能の習得について丁寧に示されていることが分かる。

第2の観点③、音楽表現を創意工夫させるための工夫について。ここでは歌唱を取り上げる。第1学年の教科書14・15ページにはミュージカルサウンドオブミュ

ージックの中から代表的な「ドレミの歌」「エーデルワイス」を取り上げ、16ページ「Active!」にこの2曲について速度、拍子、テクスチュア（音の重なり方）等について調べ、表にまとめるよう示されている。調べた曲の特徴を生かして、どのように表現の仕方を工夫するか、それぞれの曲について①～④の部分ごとに考え、交流するためのワークシートが掲載されている。キャラクターの吹き出しに具体的な工夫点を記載していることから、これらを手掛かりに音楽表現の創意工夫につなげることが期待される。

その他の観点については、A3の一覧に示している通りである。

教育出版の教科書は、入門期における学習活動について段階的に扱い、技能の習得を図ろうとしていること、また音楽を形作っている要素に着目する学習活動を示していることが特徴である。

教育芸術社の教科書について説明する。教育芸術社の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに特に特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点②番、第2の観点③番、第3の観点⑥番

第4の観点⑧番、第5の観点⑩番

この教科書では特に第2の観点、第3の観点、第5の観点を取り上げる。

第2の観点③「音楽表現を創意工夫させるための工夫」について。

各学年とも「学びのコンパス」のページが掲載され、「音楽的な見方・考え方」を働かせて深い学びを実現するための手立てを示している。

第1学年で説明する。18・19ページ。「主人は冷たい土の中に」を表現を工夫して演奏するために、19ページには①～④までの学習過程が示されている。

旋律の特徴、強弱、終わりの音などを確かめ、表に整理し、曲の特徴や構成をグループで話し合う活動が示されている。話し合ったことをもとに、どのように歌いたいか考える活動について、キャラクターによる吹き出しが表現の工夫の手掛かりとなることが考えられる。「深めよう」では、さらにいろいろな表現を試す学習活動が示されている。

第2、3学年上の30・31ページで説明をする。「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう」では、「てがみ」「かざぐるま」などの言葉の抑揚をもとに3つの音を選んで当てはめる活動から導入し、続いて俳句に旋律をつくる活動が示されている。そして民謡音階の5つの音を選択させ、無理なく旋律を創作できるようになっている。デジタルコンテンツの創作ツールで実際に音を選び、試行錯誤しながら学習が進められるよう工夫されており、生徒同士で中間発表を行いながら主体的・対話的な学習につながることを期待される。

第3の観点⑥「音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫」について。

全学年に「生活や社会の中の音や音楽」のページがあり、音や音楽と生活、文化との関わりについて資料が掲載されている。身の回りの音や音楽の果たす役割が紹介され、音楽への関心が高まることが期待される。

第2、3学年下の66・67ページには「仕事と音楽」という特集のページがあり、音楽が医療や介護などにに関わり、人々を支えていること、SDGsとの関連が掲載されている。音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる力の育成に資する内容であると考えられる。

第5の観点⑩「楽譜、イラスト、写真、デジタルコンテンツの活用」について。各教材に二次元コードを掲載し、パート別の旋律、ピアノ伴奏が再生でき、生徒が主体的に、学習に取り組む事が期待できる。例えば、2・3年下11・13ページ。また、学習内容や図の補足、説明を見ること、ワークシートの活用ができる。第2の観点③でも触れたとおり、創作の学習活動に示されている。創作ツールは、楽器や音楽ソフトがなくても読み取った二次元コードから直接音を鳴らすことができる点で効果的に活用できると言える。（2・3年上31ページ、2・3年下31ページ）音を通して、試行錯誤したり、生徒が主体となって学習を展開したりできる工夫がみられる。

教育芸術社の教科書は、総合的にみて、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、生徒の主体的・対話的な学習に有効な学習過程及びそのための工夫が示されていることが特徴である。

その他の観点については、A3の一覧に示している通りである。

◇委員 選曲のイメージはどうか。

◇調査員 伝統曲、新しい曲、合唱曲等、どちらもある。教芸は、2・3年下、ポピュラー音楽は非常に特徴的である。

◇委員 芸術祭との関わりにおいてはどうか。

◇調査員 二部合唱、混声合唱、難易度等どちらの会社も選択できる。

◇委員 共通教材以外の変更はどうか。

◇調査員 教芸の比較はできるが、教出の比較はできない。新曲でも、学校実態に合えば、採用できる。

◇委員 1年生の創意工夫について、同じ活動であろうが、教芸は、知識・理解についても触れながら扱っている。教出は何を意図しているのか。

◇調査員 最初の1年生の導入段階であることを想定して作られている。音楽の決まりごとが巻末に載っているので、その内容を抽出して創意工夫することを想定されている。表記上のものを、実際の音と結び付けて生徒が工夫していく。教師がそのように扱うことが予想される。

- ◇委員 それを踏まえて、特徴がより出ているのはどちらか。
- ◇調査員 整理の仕方はどちらも同じだが、主体的・対話的で深い学びをより意識しているのは、教芸である。
- ◇委員長 器楽の調査研究報告をお願いします。
- ◇調査員 音楽科（器楽）の教科書についての総合的な所見について説明する。
- 教育出版社の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに特に特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。
- 第1の観点①番、第2の観点④番、第3の観点⑤番
第4の観点⑦番、第5の観点⑨番
- この教科書では特に、第1の観点①と第2の観点④を取り上げる。
- 第1の観点①、器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫について。
- 楽器の習得についてスモールステップで段階的に技能を習得できるよう掲載されている。8ページからのリコーダーについてのページで説明する。
- 姿勢や構え方は左右のアングルから写真が掲載されている。タンギングの種類を説明したのち、まず左手の運指「ミ」の音だけで練習を始めるように展開されている。続いて、「レ」「ド」だけでタンギングの練習を導入している。タンギングを色々なリズムで演奏し、その際使う音を左手で演奏できる3つの音に限定しているため、演奏に必要な基礎的技能の確実な習得に繋がる丁寧な記載となっている。
- 第2の観点④、音楽的な見方・考え方を働かせる工夫について。
- 30ページ「表現の仕方を調べてみよう」。このページでは吹く楽器の音の出し方から、それぞれの楽器「リコーダー、篠笛、尺八」の特徴について、ワークシートを使って整理するよう示されている。そして共通点や相違点について考え、話し合うように示されている。鑑賞曲を聴き、楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴をとらえる学習の展開ができるよう示されている。55ページにも同様に弦楽器「ギター、箏、三味線」を取り上げている。
- 教育出版の教科書は、楽器の導入における学習の段階を丁寧に扱っていること、合わせて楽器の特徴を比較して考える工夫を示していることが特徴である。
- その他の観点については、A3の一覧に示している通りである。
- 教育芸術社の器楽の教科書について説明する。教育芸術社の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに特に特徴と言えるものや良いと考えられる番号を読み上げる。
- 第1の観点②番、第2の観点③番、第3の観点⑤番
第4の観点⑦番、第5の観点⑨番
- 器楽の教科書では特に、第1の観点②番、第2の観点③と第3の観点⑤を取り上げ

る。

第1の観点②、題材の学習目標等の示し方について。

30から33ページで説明する。ギターの学習で、見出しに、左手のポジションを確かめよう、ストローク奏法で弾こう、アポヤンド奏法とアル・アイレ奏法で弾こうと示されている。左手のポジションを確認した後、ストローク奏法から導入している。これはギターの初心者にとって、できた、弾けたという実感を得やすい順に示されていると考えられる。また、教材曲の下に、何に気をつけてどのように学習活動をするのか活動文が示されている。

第2の観点③、音楽表現を創意工夫させるための工夫について。

箏についてのページで説明する。42・43ページ。一連の箏の学習を進めた後、習得したことなどを使って箏の旋律をつくる学習活動が示されている。その際の課題や条件を示し、①1小節をつくり、②その反復で2小節目をつくり、③それを変化させてつくるよう示されている。その際、箏のいろいろな奏法を試して、試行錯誤しながら学ぶことが考えられる。旋律の反復や変化など一般の音楽の授業で習得したことを器楽においても活用して工夫することが考えられる。また、箏の音楽の多くが歌を伴っている事を説明してあり、伝統的な縦書きの譜面を多く掲載したうえで、五線譜も合わせて記載するなど、我が国の音楽の伝統が伝わるよう工夫されているのが特徴であると考えられる。（※第4の観点⑦にも関連する）

第3の観点⑤、興味・関心を高めるための工夫について。

68・69ページ。「バンドの世界をのぞいてみよう」ではポップス（MONGOL 800）「小さな恋のうた」のサビの部分のバンドスコアが見開き2ページにわたって掲載されている。このサビの部分はギターで演奏しやすい部分を取りあげており、バンドによる音楽のスコアを掲載することでギターやベースへの関心が高まり、タブ譜で演奏してみたいという意欲に繋がることが考えられる。その他、次の70ページにも和楽器がジャンルを超えてコラボレーションしているページが掲載されている。生徒の多様な興味・関心に繋がるよう工夫されている。

教育芸術社の器楽の教科書では、伝統的な音楽から、最近のポップスまで幅広く取り扱われていると考えられる。また、一般の教科書にも登場した「学びのコンパス」が器楽の教科書にも掲載されており、「問い」が設定されている他、表現を工夫する上で注目すべきことが示されている。自ら主体的に学習を進められるよう工夫されている特徴がある。

その他の観点については、A3の一覧に示している通りである。

◇委員 楽器の演奏の種類はどの程度取り上げているのか。

◇調査員 アルトリコーダー、ギター、篠笛、和太鼓等である。

- ◇委員 全てを網羅する訳ではないのか。
- ◇調査員 そうである。学校の実態に応じて、取捨選択する。
- ◇委員 2社で、デジタルコンテンツの有効性はあるか
- ◇調査員 教芸にその特徴が出ている。生徒が家に帰って聴くことができる。
- ◇委員長 以上で音楽の調査研究報告を終わる。一般から審議する。

(教出)

第2の観点、「音の重なり方等について調べ、曲の特徴を活かして、どのように表現の仕方を工夫するか、交流するためのワークシートが掲載し、また、キャラクターの吹き出しに具体的な工夫点を記載するなど、音楽表現の創意工夫につながる工夫がなされている。」とする。

(教芸)

第2の観点、「旋律の特徴、強弱、終わりの音などを確かめ、表に整理し、曲の特徴や構成をグループで話し合うなどの活動が示されている。」「どのように歌いたいか考える活動を設定している。」「『深めよう』では、さらにいろいろな表現を試す学習活動が示している。」とする。

第3の観点、「身のまわりの音や音楽の果たす役割を理解し、音楽への関心を高める工夫がある。」とする。

器楽の審議を行う。

(教出)

第1の観点、「スモールステップで段階的に技能の習得ができるように掲載しており、使う音を3つに限定して、色々なリズムで演奏し、また、演奏に必要な基礎的 skill の確実な習得に繋げる丁寧な記載になっている。」とする。

第2の観点、「各楽器のカテゴリーごとに、音楽的な見方・考え方を働かせながら、各楽器の特徴についてワークシートを使って整理し、各楽器の鑑賞曲を聴き、楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴を捉える学習の展開ができる。」とする。

(教芸)

第2の観点、「箏のいろいろな奏法を試して、試行錯誤しながら学ぶことが設定されている。旋律の反復や変化など一般の音楽で習得したことを器楽においても活用して工夫することが設定されている。」とする。

第3の観点も「楽器への関心が高まり、タブ譜で演奏してみたいという意欲に繋がる活動がある。また、和楽器がジャンルを超えてコラボレーションしているページが掲載されており、生徒の多様な興味・関心に繋がるようにしている。」とする。

本日の審議は以上とする。今後も修正等意見が出てくれば、引き続き次回以降に取り上げる。

事務局から連絡事項等があればお願いします。

◇事務局 次回連絡